

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300502		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホーム花咲み(はなえみ)		
所在地	富士市宇東川西町8番41号		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町村受理日	令和2年12月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jiyosyoCd=2292300502-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」の元、自分や親、大切な人が受けたいと思う介護を提供、寄り添うケアの実現に取り組みサービスの質向上に努めている。お客様の～したいの声を大切に、企画に繋げている。こやまケアを実践し個別での対応を行っている。
 ・開設初年度にISO9001認証取得、一定の質の確保と顧客満足度向上を目指して運用している。
 ・湖山医療福祉グループ・百葉の会として人材育成に力を入れた研修や勉強会の体制がある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から数度停電となり、そこを契機として「備蓄品献立表」を作成してみたところ、「ご飯は2分の1くらいがいいね」といったことも判り学びが広がったとのエピソードは事業所の常々における真摯さの一つの現れです。コロナ禍の看取りでは、非常口が一番近い居室に移動して姉妹や孫に囲まれて旅立つことができ、またリクライニングの車いすを借りてきて亡くなる直前に散歩できたことが職員の達成感にも実っています。常勤換算6.5と厳しい中、感染対策しつつの看取りに職員総意で臨んだことは「よく乗り越えたものぞ」と感慨深く、振り返る職員の目には光るものが浮かんでいました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ここでは、たくさんの笑顔が集まるあなたの居場所」をモットーとしグループ理念「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」に基づきお客様の立場になって考えている。職員で寄り添う介護、お客様を支え実施できるよう取り組んでいる。	利用者のその日の状態を把握して勤務の職員間で細目に協議できていると新管理者は自負しており、実際利用者家族からも評価してもらえたエピソードもあり、取組みを通じてチームワークも高まっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は近隣、ふれあいバンクへの散歩などを行っているが日常的な交流までには至っていない。本年度は地域の防災訓練、原田地区敬老会には参加できなかった。地域の方による演芸、読み聞かせなどの慰問も中止している。	地域の寺院への散歩や買い物、併設事業所とのカラオケなど、これまでできていたことができなくなっています。それでも、戸外にいるような季節を感じてもらいたいと、葡萄のクラフトを天井から下げる等尽力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は認知症カフェは実施していない。運営推進会議で事業所の開放、利用を促したが利用はない。気軽に相談いただけるよう「介護相談」を掲げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	原田地区連合会長、町内会長、民生委員、ふれあいバンク所長、ご家族様に参加していただき2ヶ月に一度開催してしたが4月より開催できていない。	奇数月の隔月開催と定め、連合町内会長をはじめ地域のお歴々にメンバーになってもらっていて賑わいのあった運営推進会議は、5月・7月・9月を感染拡大防止の為、中止しています。	条例下の取組みのため、2ヶ月分の活用内容をまとめてメンバーに送付のうえ、意見をもらって議事録とする書面開催があることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催時には、事業所としての取り組みや運営状況について市職員、包括支援センター職員などにアドバイスを受けている。	コロナ禍前には運営推進会議を通じて行政の助言を受けることもでき、またグループホーム連絡部会で他の事業者と定期的に情報交換もあり、双方の事業所を訪問しあう交流会も有意義でしたが、現在はありません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間を除き玄関、2F入口は施錠していない。身体拘束の研修を年間計画に入れ実施。事業所としても身体拘束ゼロ宣言を行ったが、法人としても身体拘束はしないことを徹底している。法人内での活動は休止中。	職員で共通する課題をみつけると、身体拘束廃止委員会メンバーである管理者が率先して現場事例としてあげて早期解決を図り、またアンケートを通じて職員個々の意見を吸い上げ、改善に向け道筋を示すことができています。	身体拘束未実施減算に係る書類は、あらためて精査して、分かり易くすることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	対象者をあげて職員アンケートを実施、率直な意見もあり検討した。ポスターをGHで作成し常に問題意識をもつようになっている。依頼により富士市障害者虐待防止ネットワーク運営委員会に昨年度より職員が参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要とされる方はいない。職員への研修参加や学ぶ機会が確保できておらず活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書・重要事項説明書について説明を必ず行いご署名、ご捺印をいただいている。変更等ある場合は、家族会や個々に説明している。ご利用にあたってのリスクも説明、ご同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本年度もお客様アンケートを実施中。ご家族様にアンケート結果と改善内容について掲示の他、個別にて郵送している。回収率を上げるためご家族様に直接手渡しをした。ご意見箱を置き定期的に確認しているが本年度の投書はない。	居室担当者がこれまでも毎月便りをしたため届けていますが、「行けないので気になる」という家族に配慮して以前より詳細に伝えていきます。また、往診日における立ち合いにも声をかけ、会える頻度を上げていきます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	面談の他、法人内の運営管理、人材開発室部長が毎月運営会議に参加しており、直接リーダーの声を聞く機会がある。ケアの面に関しても具体的なアドバイスをいただいている。	「職員のいいところは疑問をもてること」と、管理者が良い点を自認していることは風通しの良さを覗かせ、改善にあたっては委員会や部署会議において協議できていることも安心です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実務評価表の活用と目標管理制度では半期ごとの目標進捗状況確認面談を行い意欲向上につなげている。計画休暇、有休取得、確実な休憩時間の取得を推進、実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中途入職者には中途採用者研修参加の他、OJTを取り入れ育成、リーダーは職員に対し面談を適宜行っている。部署間異動を実施、既存職員全員で指導、フォローにあたった。感染対策、看取り研修にはZOOMで参加した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会、法人内の身体拘束委員会、実践者研修への参加など法人内外の職員と研修やGWなどを通じて多く話をする機会があったが本年度は実施できていない。法人内GH事業所には内部監査で訪問、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本年度は併設の小多機より1名入所。小多機より情報を得たり部署間異動により顔見知りの職員もいるため不安の訴えや混乱なくとも穏やかに過ごしていただけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここまでに至った経緯や苦労話、ご家族様のご心情をお聞きし、要望を取り入れる努力をしている。体調について家族より相談があった場合には訪問診療時に同席していただき主治医、職員と情報の共有を行い解消できている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問い合わせ時・初回面談時に、どのサービスが適切か見極め対応をしている。事情で入所を急がれる方には法人内外を問わずグループホームや入所施設の空きを確認し紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごす中で、入居者の得意分野の話を聞きだし、情報共有をしている。お客様に出来る事は職員と一緒にいき、役割となるよう対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や認知症の進行等で必要時には24Hシートを活用し穏やかに過ごしていただけるようケアの方向性を統一した。ご家族には迅速に報告しご理解、ご支援いただけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、外出や面会は制限させていただいている。電話の他、出入口付近に席を設け面会を短時間でいき寂しくならない為の支援をしている。	家族に電話を入れてもらうほか、短時間でも会えるよう配しています。毎週末に自宅に戻っていた利用者には、その時に口にしていたものを家族に持ち込んでもらうなどして、ストレスを軽減できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入り関係性を保つこともあり、お客様に了承をいただいた上で配席を変更することもある。他者との関わりが難しい方には職員が間に入り円滑な関係となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お看取りの方に葬儀場に行きお悔やみとお別れを職員全員が行った。他サービスに移行となった方があれば支援、相談にのっていききたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	対応に苦慮するお客様もいらっしゃるが最期までここで、の想いでケアにあたっている。訴えがうまくできない方も観察しその方の生活リズムに合わせた対応を行っている。	24時間シートは居室担当者だけでなく「皆でやろう」との声が自然に上がり、職員一人ひとりが励むので「大変」「もう無理」と発することができない空気感が生まれ、利用者の気持ちや症状を把握する原動力となっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には暮らしの情報をご家族様にご記入いただきケアに生かすようにしている。定期的にモニタリング・アセスメントを行っている。変化に応じてカンファレンスを実施、支援、環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や、健康状態をバイタル表にし、申し送りを通して現状把握に努めている。訪問診療時には、主治医に日々の変化、状態を正しく伝えられるように職員が互いに訪問診療時の記入をチェックしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CMIは担当から思いやその方の聞き取りを行い内容に反映、その後ケアカンファレンスを行い、全職員の同意をもって介護計画の原案を作成している。部署会議内でもカンファレンスを実施している。	サービス内容が職員の頭に入り、「チームで実践する」が確かです。看取りで作り直した介護計画書は短期が1ヶ月、長期が2ヶ月とこまめな目標で、担当者欄に「家族」との項目があることに安寧が満ちています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にて、日々の経過記録等に記録し、職員間で朝夕の申し送りをし、情報共有を行っている。訪問診療時には細かな報告を行い薬を減らすことができるなどケアへの実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	主介護者が県外在住の方や必要に応じて他科受診同行に対応し報告と状態把握に努めている。法人内リハ職に指導を依頼することもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員の来所の他、傾聴ボランティアが来所いただきお客様の気持ちの安定の1つとなっていたが休止中。図書館から定期的に貸し出ししてもらい提供し活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療にて連携を図っている。変化あれば訪問看護に報告、主治医へ報告する流れがあり都度指示をいただいている。体調変化時には主治医より丁寧な家族説明があり職員も同席している。	月2回の訪問診療には介護支援専門員が立ち合い、体調が心配されるなど直接聞いてもらったほうが良い場合には家族にも声をかけています。医師が丁寧な説明をおこなうため、家族も安心くださっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が週1回来所、健康管理を行っている。また緊急時には連絡しお客様の安全と職員の安心につながっている。体調不良時にはFAX、電話を活用し密に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への訪問で状況把握を行い、病院関係者のSWと情報を共有した。退院時の情報は主治医、訪問看護に報告をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には看取り、重度化した場合の指針を説明、同意いただいている。職員の不安解消のためアンケートを実施、チームで看取ったという自信につながった。今回は居室を変更しご家族様が面会しやすいように配慮した。看取り時には職員の他前リーダー、サブも自主的に集まりエンゼルケアとお見送りをした。	24時間オンコールで、普段から親身な医師への信頼は事業所、家族ともに厚く、看取りにおいても対応例などを添えて説明くださっています。直近の看取りではエンゼルケアを家族とおこない、送り出すときは休日の職員も集まり、チーム力を再確認しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルは整備してあるが、定期的な実践訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の地域との協力体制はまだ築けていない。停電が発生したことで再度備品の置き場などを防災委員を中心に再度見直しをした。	停電では法人管理部が駆けつけてくださるという堅固な体制を背景に、年2回の法定訓練では「避難後は隣りの事業所の応援に outward」といった実践しながらの手順を確立させ、防災委員を核として学びを重ねています。	コロナ禍明けには地域の防災訓練に参加したり、運営推進会議との併催で地域の人の参加機会をつくることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケアを湖山医療福祉グループで取り組んでいる。年2回の内部監査もこやまケアの視点でも確認することとなり振り返り、評価を受ける機会となっている。	足の指間もドライヤーで乾かし、「鼠蹊部が擦れてないか、蒸れてないか」をトイレの度に確認するといったこまめな対応は、内部監査での2回連続「指摘なし」に裏付けられ、こやまケアの蔓延を感じさせます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様のペース、発する言葉を大切にし、企画につなげ実施。日常的に笑いや笑顔が出る関わりを努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事など本人のペースに合わせるよう心がけている。無理強いをすることはないが横になっていることが多い方には不活発にならないよう声掛けをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容にて身だしなみを支援している。訪問美容でカットの他パーマ、カラーもされる方もおり好みを本人より伝えている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個別外出や外食、おやつクッキングなど一緒に楽しむ機会もあるが現在は自粛している。希望を献立、おやつに反映している。現状を踏まえGH独自で献立をたてている。体調により食事があまりとれない方にもお好きなものを用意し提供している。	3名ほど咀嚼の状態が落ちてきており、「食べるのが大事」として餡かけしたり、飲み込みがしやすいものを検討しています。またキッチン委員会が嗜好調査もおこなっており、リクエストメニューの日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量はその都度記録し、確保できるよう支援している。栄養士の資格を持つ職員がバランスのよい献立となっているかチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施。歯ブラシセット消毒と、義歯の消毒を行っている。ご家族様よりご希望のある方は訪問歯科を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を基本と考えて個別に合わせて対応している。夜間のリハビリパンツを布パンツへ、日中のパット使用をなしとした取り組みを現在行っている。	立位が保てても「本人の身体にリスクあり」と判断したなら2人介助でおこなう一方で、94歳で寝たきりとなった利用者が復調をみせ、本人の意欲もあってトイレでできるようになった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行支援・運動から自然な排便となるよう支援している。毎日手作りのヨーグルトを提供し、便秘にならないように努力をしている。排泄状況は訪問診療時に主治医に報告しており下剤を体調にあわせ都度調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上は入浴をしていたている。リラックスでき入浴が楽しみとなるように音楽を流したり入浴剤を使い変化をつけたりしている。入浴の拒否のあった方には生まれの「～の湯」をラベルを張り入りたくなる気持ちを誘った。	お風呂のない日は清拭をおこない、毎日皮膚の状態を確認するとともに下着を替えていて、洗濯機が休まず回っています。好きなひばりを十八番に歌い、生まれ故郷の産物を彷彿させる浴剤の香りで寛いでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の様子や睡眠時間の把握をし、不眠の翌日などは、日中休息の時間を設けている。無理に寝ていただくことはしておらず他の方が休まれても眠くなるまでフロアでテレビをご覧になっている方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報、服薬ナエツク、申し送りにて確認をしている。服薬時には他職員へ確認してもらいミスのないようにしている。薬剤師来所時にも状況を報告、職員間で頻回に話し合いを行い訪問診療時に薬を変えてどうかの報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	帰宅願望が強くご家族に協力いただき毎週ご自宅で過ごされていた方が現在外出できていない。少しでもストレス軽減、気分転換となるように帰宅時に自宅に帰られた時に食べていたものをお聞きしお出している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前の申し出がなくてもご家族様との外出は行っていただいていたが現在は外出をお控えていただいている。近所の散歩、天気の良い日は必ず駐車場まで全員の方が出て外気にふれながら会話を楽しんでいる。	初詣など恒例の外出行事のほか個別で居室担当者が中央公園のバラ鑑賞などに誘っていましたが、現在は近所の散歩のほか、富士山の初雪には皆で外にでて歓びを共有するに留まっています。市立図書館で写真集を借りてきて、目で楽しむことも始めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	法人として預かり金は廃止させていただいた。ご希望される方にはご家族様と外出時に行っていただく予定。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前は行っていたがご自分で電話や手紙をする方はいない。週末に職員が間に入り電話をかける方はいる。担当者が毎月ご家族様へ日頃の様子を伝える手紙を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節感を感じてもらえるよう装飾したり、提示ボードに作品等を飾っている。室温の調整や採光・換気など気を付けている。チェック表をつくり清掃を実施している。	開けても閉めてしまう利用者もいて、常とはゆかないものの春から秋口にかけては窓をオープンにして換気に努めています。食前のアルコール消毒はこれまでも実施していましたが、小さいものは個々にボトルを持つ、大きいものは各ポイントに置いています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の座席は適宜見直しをしている。席以外でも自由に過ごしていただき、気の合う方同志、ソファで話をしている様子がみられている。気ままに居室で過ごす方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にあるものは、ご本人が以前から使われていた物や自慢の物、写真等が置かれている。仏壇をお持ちになられている方もいる。	在宅ではつたい歩きをしていたとの情報から、ソファを入れて同じ環境をつくったりトイレの位置がわかるようテープを貼り、点滴設置にはベッドを真ん中とするなど、本人の状態や症状に合わせて整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	伝い歩きが居室で安全にできるように他職種にも相談しレイアウトを変更した。視野がせまい方に手書きでドア等にわかりやすいように掲示をしている。		